

令和6年度第2回おおさかプラスチック対策推進プラットフォーム会議 議事概要

日 時：令和7年3月7日（金）13:00～15:00
場 所：咲洲庁舎41階会議室7（オンライン併用）
出席者：出席者名簿のとおり

1 各分科会の取組みについて

○事務局より、「令和6年度第1回おおさかプラスチック対策推進プラットフォーム会議の開催結果について（資料1-1）」を説明。次に、株式会社ピリカより、「令和6年度一般廃棄物収集時におけるビーズ製品からのプラスチック製ビーズの流出状況等に係る調査及び啓発ツール等作成業務（報告まとめ）（資料1-2）」を説明。

【主なやり取り】

（花田議長） ご発表ありがとうございました。これから増えると思われる製品も多く出回っておりますので、大変貴重な調査だったと思います。

（原田准教授） ヒアリングされた自治体で、例えば枕の分別回収をしているとか、あるいは回収している販売店を紹介しているなど、一般のごみに混入してさっきの映像のようなことにならないよう、何か工夫をされている自治体は、調べていただいた中でありましたか。

（ピリカ） ビーズ製品に限らず、微小で軽く飛散性の高いごみ（シュレッダーごみなど）を出す時に、何か特別な対応を求めており、あるいは住民へお願いしていることがありますかという質問に関しては、ごみ袋を2重にして出すように、シュレッダーを他の古紙と分けて出す、といった対応を住民に依頼している自治体が結構ありました。

（原田准教授） ありがとうございます。個人的な話で恐縮ですが、使用済みのマットレスを自社で販売されたものを買い替える際に、回収されているようなところがないか、マットレスも粗大ごみとしてよく問題になるものの1つですが、調べてみると、なかなかない。今回の結果を踏まえて、自治体で一般のごみを出す際にわかりやすく別にするというのも勿論1つの方法ですが、作ったら作りっぱなしではなく、このようなりスクの高いごみは、販売店で回収するような取組が必要なのかなと。あるいはそういう取組の支援も必要ではないかと思いました。

（花田議長） 製造物責任というか、生産者責任というか、そういう支援も必要ですし、法制上も考えていく必要があるのではないかと思います。マットレスに関しては、上勝町でも、すごく大変な思いをして分けておられるのを拝見したことがあります。こういった処理困難物は、これからは処理の過程まで考えて販売するということが責任の1つなのかなと思います。

すごく細かい部分ですが、飛散する場所で、ステップ上というのがありました。路上に飛散するよりは、回収しやすいのではないかと思うんですが、ステップの上のものを車内に入れるとかというのは、大変なんでしょうか。

（ピリカ） ステップ上のビーズを回収量とするか、しないかも検討したのですが、現場の収集業務にあたっている人のご意見だと、収集業務は車を走らせながらやっており、停まっていても車の振動があって、ステップに乗ったものも、すぐに手で押しやればパッカー車の中に入れられるが、その余裕もないすごく忙しい収集業務ですので、振動だったり、あるいは動きながら収集して

いる場合だと、どんどん下に流れていく。あとは風も結構吹いてきたら全部出てしまうと。そういうご意見なども踏まえながら、今回はステップ上に乗ったビーズも流出量として算出しました。

(花田議長) チャットにて西山様からご意見を頂きました。

(古野電気) (チャットより) 散逸しないようにまとめて小さな塊のようにして廃棄できる工夫もあるといつもいました。クッション製品メーカーがそういうオプションを提供できるといいかもしれません。

(花田議長) わたくしも、こういうビーズ製品、ビーズ製品というとらえ方を普通の消費者はしないので、ああいう出回っているものが、中がビーズ製品で回収する時に大変なんだということを、それ自体を、まずは消費者の方が認識されていないところもあるかなと思ったんです。そういう時に、今のご提案のようにメーカーがそういうオプションを提供できればいいと思います。それから販売する時にそういったことも消費者に伝えるとか、製造過程で配慮したデザインにするとか、それぞれのプロセスで関わる方たちにもっと啓発が必要だなと思いました。勿論今の回収のところで、自治体にこうやつたらいいですよというのをお伝えすると、自治体にも有益な情報になるかなと思うので、それぞれ関わる方たちへの情報共有がすごく大切だなと思います。

○国産花き需要拡大推進協議会事務局 一般社団法人花の国日本協議会より、「大阪を中心に花業界のプラスチック循環チャレンジ (資料 1 – 3)」を説明。

【主な取り組み】

(カムフル) リサイクルだけでなく、花業界の中ではまだまだ環境アクションでやれることがありますので、ぜひ皆様にお仲間になっていただければと思います。応援のほどよろしくお願ひいたします。

(宇山教授) 単純に見えてプラスチックは中身が難しいなと思います。先日もある材料について、比較的やりやすいかと思ったら、いわゆる複合素材でした。このように、なかなか単純ではありません。一方で、花業界というのは非常に関心が高いといいますか、そういう業界とリサイクルをしたいという会社は沢山ありますので、その辺り上手に、大阪でできればいいなと。微力ながら頑張ってサポートしたいと思っています。

(花田議長) 2年前まで大学の教員だったのですが、環境のことで色々やろうとしている学生たちと、花の植え替えを毎年やっていましたが、すごく沢山の鉢トレイや苗を入れる黒いやつが出るんですね。勿体ないなと思いながら。鉢トレーに関しては、持って帰るときにいいですよといつてくださったら、持って帰ってきて、取っておいて、再利用はしていたんですけども。すごい量が出るなと感じていたのを思い出しました。それとは別に、鉢自体をそのまま植えると、土に還る、それと肥料もちょっとあったのかな、そういう鉢もありました。環境展とかそういうところで頂いたんだと多分思うんですけども、ああいうものが普及するようになって、ごみも減るし、肥料も無駄に使わなくていいしということでいいのかなとお聞きしていました。これは業界さんの取組がやはり最初に来るかなと。配慮したものを消費者が選べるようにしていくこと、そうなると消費者の意識にも訴えることができるのかなと思ったのですが。大学をやめるときも、やはり花束をかなり頂きました。包むだけじゃなくてリボンもですよね。すごく立派なリボンなので、捨てがたいんですが、じゃあこれをどうしようかってなった時に、こうしたらいですよというご提案をいただいたらしいのかなと。

(原田准教授) 花きのポットは、海岸でごみを拾っていても、植木屋さんが多いところもそうなんですが、産地が周辺にある海域、大阪湾とか伊勢湾とか、苗ポットが実はすごく多いので、そういったものも、土に還る素材やそのまま植えたらいい素材等があるので、そういったものに代わっていったらいいなど。それともう一点、店頭での小売りということで、バケツに、枯れたりしおれないように水のところに挿して、並べてらっしゃったり、あるいは水を含ませたティッシュとかそういうもので、販売されたりもしてるので、プラスチックの包装が欠かせないんだというのを以前別の会議で伺ったことがあるんです。ただ、ヨーロッパなんかに行くと、プラ包装って使ってなくて、同じ花を売るのに日本の花だけしおれやすいということはないと思うんですが、そういう売り方の工夫って1つあるのかなと思いました。印象的だったのはエリザベス女王がお亡くなりになった時に、追悼の供花を供えてらっしゃるのに、東京の大蔵館前は全部プラ包装だったのが、イギリスでは堆肥化するから絶対プラ包装入れるなということで、言わなくてそっちが当たり前ということ、この違いって何なんだろうと思ったんですね。お花っておしゃれなものというイメージがあると思うんです。プラスチックを使わない包装がおしゃれなんだっていう訴えかけは大事だらうなと思います、ただ、実際問題として店頭で水に挿して売ってらっしゃる以上は、何かしらの防水は必要だらうと。でもそこでプラスチックコーティングされた紙使ってたら何をやっているんだかというお話になるので、情報提供までなんですが、私は今、別で柿渋、柿を発酵させたもので、日本古来の塗料になつたり食品添加物になつたりするんですけど、これって実は紙の防水性能をすごく高めて、京都の高校生がそういったものを実際に開発して、実験をして、賞をもらったりされてるんです。よくあるクラフト紙みたいな、さらしの紙ですね、茶色い。柿渋のコーティングをするだけで、十分な耐水性も発揮しますし、土にも還る、食品添加物にも使われるくらい無害なものなので、今まで花のラッピングに柿渋を塗った紙というのを我々も考えたことがなかったんですが、ちょっとメーカーさんに、今日いただいたお話をせっかくなので、こんなところにも可能性があるというのも紹介したいなと思っています。またぜひご相談もさせてもらえたうらうと思います。

(花田議長) いいですね。花き(柿)違いで。今、チャットで質問頂いています。「花苗のポットを何のごみに出せばいいか地元の伊賀市に聞いたら、可燃ごみに入れてくださいと言われました。あれは容器包装プラにはならないんですかね。」とのご質問です。

(花の国日本) ごみに関してはやはり自治体様の考えもあるので、多分ですけど、若干汚れてるので、もう燃やそうと、そういう風にされてる自治体ももしかしたらあるかもしれないですし。例えば東京とかですと、土とかごみに出せなかつたりしてですね。他もそうかもしれないですが。やっぱり土の問題とポットの問題と、意外と花の苗物に関しては、悩ましいことが多くてですね。今度2027年に横浜で国際園芸博という、万博と同じAクラスと言われる博覧会があるんですが、そこの会場でも真剣にどうしようか考えなきゃという話にもちょうどなつていて、ただそういういった目標があるので、ここで一気に取組を進められたらなとは思っております。

(花田議長) さっきの原田先生の柿渋の話というのは、万博にすごく親和性高いんじゃないかなと思いますね。日本の文化。文化でいえば、供花の話はすごく響くところで、特にヨーロッパなんかは日常的に街の花屋さんで花束を買っておうちに持つて帰る姿をよく目にするんですね。日本も特別な時の花もそうですけども、日常的なお花が身の回りにあるといいなと思います。もう一つ、今回はプラスチックの会議なんですけども、枯れた後も循環していくようにということも

花き業界さんでも考えていくていただけると、廃棄物全体として減るのではないかと思いました。これから可能性が広がる業界だと思いましたし、この協議会にとってもすごく大きなテーマだなと感じます。お花が好きな方、グリーンって言ってしまっていいのかわかりませんけども、グリーンが人間のメンタルの面で非常にいいというのは、やはり研究も進んでおりますので、自然だけにいいとか、人の健康だけにいいとかではなくて、ワンヘルスっていう考え方で見ていかないといけないというのは、まさしくウェルビーイングなので、そういう点からも、可能性からも、期待を持てそうな、当協議会としても大きなテーマだなと思ってお聞きしておりました。

チャットにですね、福井様からご意見いただいています。ありがとうございました。

(エムエフマーク) (チャットより) 川村さんが述べていたように、ビーズは、可燃物として廃棄出来る自治体があるようですが、散逸の理由を見定めるのも必要かと思いました。

2 取組紹介

○川上産業株式会社より、「川上産業株式会社での取り組みについて（資料2）」を説明。

【主なやり取り】

(花田議長) プチプチは製品名だったんですけども、もうあれ全体の名前になってますよね。減容機と回収箱があったと思うんですけども、減容機の方に入れたときに音ってするんでしょうか。

(川上産業) プチプチがつぶれるときの音がします。

(花田議長) 回収機はしない？

(川上産業) 回収ボックスについては特に機械とかがついておらず、単純にプチプチを入れていただくボックスになっているので、音はないです。

(花田議長) 入れたときに、通過したら音がすると面白くて入れてくれるかもしれないなと思いました。それから、回収箱そのものはプチプチからのリサイクル品ではない？

(川上産業) プラパールという素材でできいて、プチプチ状の目になっていて、板状のものになっています。

(花田議長) リサイクルの素材としては、プチプチ？

(川上産業) 素材としてはポリプロピレンでできています。

(花田議長) じゃあプチプチじゃなくて他のものから作っている？

(川上産業) はい。

(花田議長) うーん、なるほど。これがプチプチだったら完全だなと思ったんです。

(宇山教授) 発表の途中にあった、2030年度の環境制度、あの辺が理解できなかったんですが。最後の方の積水さんとかはよくわかります、いわゆる水平リサイクル系でいくと思うんですが、御社の割合を考えますと、結構・・・以外のところから、再生のポリエチレンを持ってきてるというイメージでよろしいんですよね。原料については。

(川上産業) はい。

(宇山教授) そうすると、例えばいわゆるPCR品の中の、プチプチは基本LDPE(ローデン)、低密度品ですね。だからその辺の分別っていうのはいわゆるHDPE(ハイデン)、ローデンというのはきっと分けられるのかな、だから割合低いのかなと、その辺ちょっと気になったんですが。

(川上産業) 大橋です。基本的に我々、プチプチをリサイクルしたいという目的でリサイクルもはじめてま

して、ただ、お客様の困りごとの中でですね、プチプチって実は、納品先にいつもプチプチがあるわけではなくて、商品を包むために外にいっぱい出でていってしまうので、実は我々の納品先にプチプチってあまり残ってないというパターンが多くてですね。そうなると、どういうところあるかっていうと、先ほど EPSON 様みたいに、どこから商品が一緒にきたときに、梱包資材に包まれてというところが実はあったりします。その中でですね、我々基本的にポリエチレン、プチプチに何でも戻せる自負はあるんですが、当然排出物の中でプチプチ以外にも、ストレッチもあれば、ハイデン・ローデン系のフィルム系・袋もあったりですね、色々な素材がご商談の中である。我々としてはポリエチレン系であれば戻せる、なんでも一通り技術はあるので、ハイデンとかローデンも含めてですね、我々が回収できる品質であれば、有価取引の中で回収を試みているという流れです。プチプチは基本的にローデンベースであるんですが、ハイデンも一部入れてる部分もありますんで、資源としては、還る資源として、原料として、回収してると。そういう流れになります。

(宇山教授) 気になったのが、私生分解性プラが専門なんですけども、そっちの方が普及しちゃったら一般の方はわからなくなってしまうので、できればこれからも全部ポリエチレンでやった方がいいのになと思ったりするんですが、その辺は・・・

(川上産業) 回収ボックスは一般の方対象にしてまして、そうなるとなかなか素材って難しいので、もうプチプチという限定で回収させていただいてます。企業さんのところはハイデン・ローデン含めてご相談しながら回収していると。

(宇山教授) 最初の方でバイオプラについてのスライドがあったような気がしたので。それが少し気になつたんですけどね。これはバイオポリエチレンだけなんですね？

(川上産業) そうですね、これは 10% 入ってるやつですかね。こういう環境製品と、あとエコハーモニーという、有色の再生原料を使ってる、再生原料ほぼ 100% の商品があります。透明だけではなくて色付きもあるので、そうするとなんとなく青に寄せていくって、エコハーモニーという有色の再生原料の商品がありますということですね。

(花田議長) 多分宇山先生は、もっと回っていったらいいというそういうお考えでご質問頂いたのかなと思います。

(宇山教授) もっとシンプルにものを作られた方が、回すことを考えたら。

(花田議長) そうですね。ぜひ参考にしていただけたらと思います。

それからチャットの方ですね、ご意見いただいています。

(ごみゼロネット大阪) (チャットより) 回収ボックスで回収したプチプチは、一定量がたまつたら収集に来ていただけるのでしょうか。

(川上産業) はい、弊社の方で収集に伺わせて頂いております。

(花田議長) 市役所で置いているのは千葉市役所くらいなんですか。他にも置いているところがあるんでしょうか。

(川上産業) 関西の方では、枚方市さんには設置をさせて頂いております。

あと最近ですと、福岡市ですべての区に 1 投点ずつ置かせて頂いていますね。

(花田議長) やはり回収拠点が多いと、消費者の方も意識してくださると思うし、消費者が意識すると、生産者とかそれを使ってくださるところも意識されると思うので。喜んで置いてくださりそうな市がいくつか頭に浮かぶので、またご連絡をさせて頂いたらと思います。その時にですね、音

が出ると楽しくていいなと思ったので、申し上げました。

他の資材にも参考になるような取組になっていって頂きたいなと思いますので、これからもうぞよろしくお願ひいたします。

3 その他

次回開催 第1回全体会議 令和7年8月頃